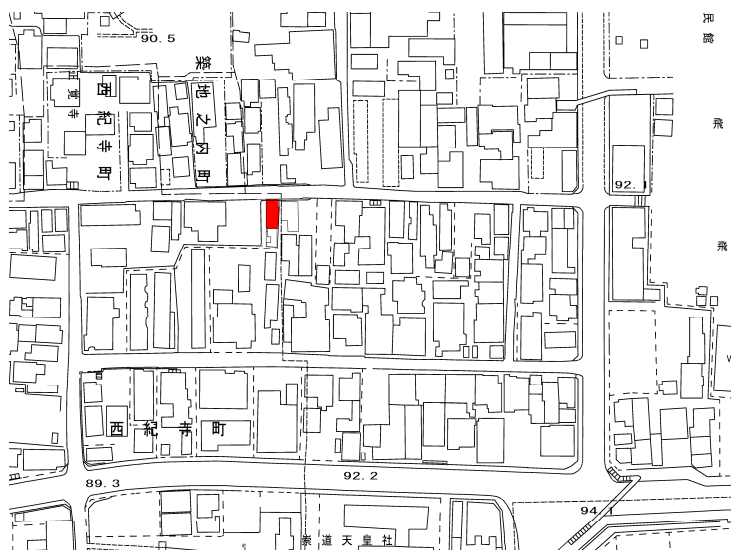


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	42	名称	鈴木家住宅 西紀寺長屋
指定年月日	R8.3.24	所在地(指定地)	西紀寺町 22 番地 7
指定建造物	主屋	建築年代・概要	大正頃 木造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	奈良町の南西部に位置する当地は、昔は奈良町に隣接する農村部で、町場や田畑が混在し、主として農家によって構成されていた地域であったが、飛鳥小学校の移転(明治33年)、陸軍奈良連隊創設(明治42年)、循環道路の開通(昭和11年)等の周辺環境の変化により、現在のよう在宅地として発展した地域である。当家の東側には徳田家住宅(歴史的風致形成建造物・明治時代建築)が、斜め向かいには山賀家住宅(歴史的風致形成建造物・大正15年建築)が建つなど、伝統的な町家も残る。 建物は、もとは二戸一の長屋であったが、平成初期頃に西半分が取り壊され、現在は東半分のみが残存する。建物の状況から、大正頃に建てられたとみられる。近年は空き家となっていたが、令和8年の修理後は再び住宅として活用される予定である。		
建物特徴 ・ 改修履歴	主屋は、東西道路に北面して建つ木造平屋建、切妻造、棧瓦葺である。正面外観は、東側に出入口、西側に出格子を構える。壁は浅葱色の塗壁で、腰板を張る。かつて長屋の西半分が接続していた西側妻面は焼杉板張りとする。 長屋ながらも当初から一列三室の典型的な平面構成であったとみられ、令和8年の改修前には通り土間の天井上の壁や木部は煤けており、旧野地には煙突の穴も残っていた。昭和中期頃に、表構えの出格子を撤去して表側居室を前方に拡張し、土間に床と天井を張る等の改修を行った。その後昭和後期には建具をアルミサッシに変更し、主屋背面には2階建の居室等を増築する等の改修を行ったが、令和8年に表構えの出格子を復原し、活用のため内部の改修を行った。通り土間は前方を除いて床を張り、奥は居室を土間部分まで拡張している。 外観は当初の姿に復原され、内部も建物の基本的な構成は保存されている。 ＜改修履歴＞昭和中期頃：表側の居室を一部拡張し、表構えを改修、土間に床と天井を張る 昭和後期から平成初め頃：出入口、窓、面格子をアルミ製品に交換 内装を新建材で改装、主屋背面に2階建居室増築 令和8年：表構え復原、西妻面外観整備、屋根葺替、内部改修、主屋背面増築部をキッチン・浴室等に改修		
活用	住宅として活用。		
価値	二戸一長屋の半分が残ったものであるが、復原された外観、一列三室の構成を留める内部とも、奈良の町家の典型を示す。周辺環境の変化に対応しながら現在まで残存し、かつての長屋の様子を伝える建物で、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。		

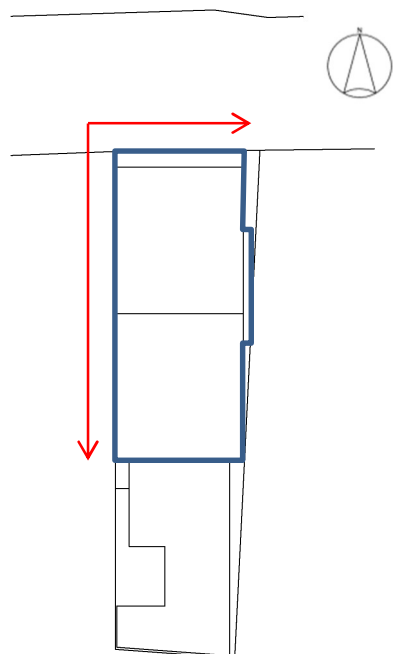


歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

- 該当建造物
- ↔ 公開範囲



0 5m

配置図